

当院では本年8月より待望のMRI装置更新を行います。
更新機種は東芝メディカルシステムズの最新1.5テスラMRI Vantage powered by Atlas です。
現在まで当院の画像と診断は分かりやすさをモットーにしてきました。しかしながら画像のクオリティーは機器の機能に依存する事から現時点で1.0テスラMRIの画像は見劣りが著しく、当院の悩みの種でありました。

今回導入する東芝のMRIは、新しいアプリケーションを備えたより多くの情報を提供できる優れた機器です。

機器の特徴は下記のとおり

- 1.高画質&高速撮影
- 2.高磁場なみのMRA描出能力
- 3.造影剤を使わず血流測定可能
- 4.体動補正
- 5.全脊髄撮影
- 6.広範囲の脂肪抑制や拡散強調画像の撮影
- 7.脳神経や神経根の描出可能
- 8.心筋梗塞診断の高画質プロトコル装備
- 9.末梢血管や低血流、四肢静脈も描出可能
- 10.従来より静か

など実務上の診療に役立つ機能を有しています。



当面は従来通りの各種ルーチン検査を行います。新機能を利用した撮影方法については近日中に改めて御紹介いたします。何卒よろしくお願いいたします。



英語・中国語・韓国語が話せる職員を配置しました。

当院では、外国籍患者様が安心して医療を受けられるように英語・中国語・韓国語が話せる職員を総合受付に配置しております。(不在の場合がございますので予めご周知おきください)

また、かながわ医療通訳派遣システム自治体推進協議会と多言語社会リソースかながわ(MICかながわ)との協働事業である、医療通訳派遣システム事業へ協定病院として参加しておりますので上記以外の言語でも対応が可能な場合がございます。

医療通訳派遣をご依頼したい場合は当院スタッフまたは、医療福祉相談室にご相談ください。



Social Insurance Yokohama Central Hospital

横中連携

YOKOCHURENKEI NEWS

2012年8月 VOL.8
社会保険横浜中央病院 発行

ニュース

院長から

「地域医療交流会を終えて」

社会保険横浜中央病院 院長 大道 久



第5回地域医療交流会のシンポジウムには、100人を超える関係者の皆様にお集まりいただき、有意義な意見交換ができましたことに御礼申し上げます。

今回のテーマは「支えること、支えられること、地域で織りなすトータルサポートケア」ということでした。これは、これまで病院と診療所、あるいは介護施設や地域包括支援センターは、それぞれ相互に連絡し合いながら連携を重ねてきましたが、地域住民の皆様の高齢化が進むと様々な合併症が出現し、病状も重症化しがちになって、転院しようにも受け入れ先が見つからず、療養継続に必要な在宅サービスが得ることが困難な場合も少なくありません。そこで、地域において利用可能な病床機能やサービスに関する情報を適切に収集し、それらを最も必要としている患者・療養者の方々に結び付けることができるような仕組みを地域の中に設けることができないか、関係者の皆様からご意見をいただこうとするものでした。

当日は、当院の脳外科部長から、退院調整カンファレンスの現状と脳卒中の診療における多職種による在宅療養の意義と重要性が紹介され、退院調整看護科長からは、先に実施させていただいた「高齢者の在宅生活を支える医療・介護・福祉連についてのアンケート」結果の概要を報告させていただきました。在宅療養を支援する上で、認知症や精神障害、あるいはがんや糖尿病のある療養者の方々に多くの困難があることが、改めて明らかになりました。また、身寄りやキーパーソンがいないこと、あるいは認知介護・老々介護等の社会的背景が、療養生活の継続に大きな課題があることも指摘されました。

シンポジウムでは、地域の現場から対応困難事例の紹介や、調剤薬局からの訪問服薬管理の実際も報告され、ご参加いただいた方々との共通理解を得られたものと思います。フロアからも、情報共有や関連情報の有効活用に関するご意見をいただき、有意義でした。今回の企画は、当院の医療福祉相談室が中心となって行いましたが、引き続いて地域の皆様と連携調整業務の充実に向けて協議を進めさせていただくことになると思いますので、宜しくお願い致します。



副院長から

チーム医療センターについて

副院長 海津 嘉蔵



近年、我国において、疾患の様相は急速に変化してきました。特に、生活習慣病が急増し、肥満・糖尿病・高血圧・慢性腎臓病・心血管性疾患などが癌と共に増加しています。最近の進歩した医学をもってしても、このような増加する慢性疾患を早期に診断し、治療して、疾患を根治し、患者数を減少させる程の力はありません。一方、患者側もかかる疾患に関心が高まり、インターネット等の情報が交錯するなか医療機関への希望や期待は大きいものがあります。そして、十分にその希望に対し、医療側が応じられていない事に不満があるようにも見受けられます。そのような状況の中、前述の生活習慣病を中心とした疾患は1つの薬剤や1つの治療法だけで克服できる程、簡単ではありません。それには、第1：対象疾患を想定し、それに対して治療方法の方針を立てる必要があります。第2：病院での診察室などのハード面で工夫が必要です。第3：病院スタッフの体制構築が必要です。第4：患者の疑問や不安に答える体制が必要です。従来の治療体制では、不十分であるという考えです。慢性の生活習慣病や心血管疾患の治療には、医師はもちろん、コメディカル・スタッフとの連携によるチーム医療が必須であると思われまます。診療科を超えて連携し協力するのが横断医療、職種を超えて協働し、連携し、補完するのがチーム医療です。チーム医療は、言葉では簡単ですが、実行は困難です。実施する場所がありません。医師の診察室と栄養士の指導室は離れた場所にあります。薬剤師や看護師は指導する場所もなく、指導するという枠はありません。そこで、当院では、院内再改築をするに際し、チーム医療センターを創設いたしました。すでに当院では糖尿病・CKD・感染症・NST・褥創・緩和ケア・フットケアの7つのチーム医療部があります。これらのチーム医療部が外来患者を対象としたチームで診療する場所を創る事といたしました。チーム医療センターでは、医師の診察室のすぐ側に多人数用の指導室と小さな指導室計4つの部屋があります。ここで患者家族が多職種のスタッフの指導を、そして治療を受ける事が可能です。恐らく、我国においてチーム医療センターとしてこのようなセンターを持つ病院はまだ聞いたことがありませんので、ひょっとすると当院が初めてかもしれません。当院は、306床の中規模病院で、狭く、そして古い病院です。しかし、変貌する生活習慣病に対峙するための新しい診療体制をもつ外来を先駆けて創設した事を誇りにしたいと思います。後は、院内のスタッフが趣旨を理解し、活用していただければと願っています。大道院長以下、皆様の御理解と尽力で出来た場であると思えます。感謝感謝。



部長就任にあたり

内視鏡センター部長 宇野昭毅



2010年5月より2012年3月までの約2年間日本大学医学部附属板橋病院において内視鏡室室長を務め、本年4月より内視鏡センター部長に就任いたしました。

同年5月まで内視鏡室は3階にありましたが、改修工事や機器の移動も無事終了し、6月4日より2階に「内視鏡センター」としてリニューアルオープンいたしました。内視鏡センター長という新しいポストで、新しい内視鏡室を運営していくという転機に恵まれ、大変光栄に存じております。

現在、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、バルーン小腸内視鏡検査や保険適用された消化管ステント留置術等の検査、治療も多岐に渡り新たに開始しており、近隣の医療機関の中でも中心的存在となるように発展させたいと思っております。さらに、今後内視鏡検査件数の増加を図るとともに、患者様には安全で苦痛のない質の高い検査、治療を提供できるよう努力を続けていきたいと考えておりますので、御指導の程よろしくお願い申し上げます。

婦人科部長 関本僚平



こんにちは。関本僚平です。

今年度より婦人科部長に就任いたしました。昨年度より、常勤嘱託医として社会保険横浜中央病院婦人科外来を再開しました。現在、非常勤の先生方と外来業務を行なっております。(坂田壽衛先生、藤脇伸一郎先生)

私は北里大学出身です。その私がこの病院に赴任することとなった経緯は、神奈川県産科婦人科医会で、以前より私の父(金沢区で婦人科を開業)は当院名誉院長である坂田壽衛先生にお世話になっておりました。昨今の産婦人科医不足や諸般の事情がございまして、当院へ赴任することとなりました。

さて、当院婦人科の方向性ですが、「横浜市大センター病院」「みなと赤十字病院」「けいゆう病院」という、人材が十分確保された大規模な産婦人科が存在する関係上、近隣の先生方から「小回りの利く検査、入院、手術」などを期待されているのではないかと理解しております。次に「健診センター」があり、同院内での2次検診業務の必要性を感じております。

今後独立行政法人化するにあたり、地域連携を主眼に置いた医療を推進する基幹病院となるよう社会保険病院に対し決定がされております。また、上記のような婦人科部門の立ち上げを仰せつかった以上、オフィスギネコロジーから病院への橋渡しの役割を担うべく一所懸命職務を遂行する次第でございます。

至らぬ点は多々ございますが、また、遅々とした歩みではございますが、横浜中央病院のために頑張っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

整形外科部長 中島伸哉



はじめまして。平成24年4月より、横浜中央病院整形外科部長を拝命いたしました中島伸哉と申します。長年にわたり横浜中央病院で整形外科を支えて下さった、前部長の矢作先生が3月いっぱいまで定年退職されました。本当に長い間お疲れ様でした。通常の診療のみならず救急医療に尽力されてきた矢作先生の功績を、日々実感しながら診療を行っている所でありまます。現在矢作先生は非常勤ではありますが、横浜中央病院で我々をサポートして下さっています。その技術と経験は何にも変え難い財産であります。少しでも多くのことを吸収し、患者様に還元していける様、スタッフ一同考えております。

さて少し自己紹介をしたいと思います。平成10年に日本大学医学部を卒業後、日本大学整形外科学教室に入局。平成16年に医学博士を取得し、平成18年から駿河台日大病院で勤務。その間に医局長、外来医長を経験して横浜中央病院に着任しました。サブスペシャリティは脊椎脊髄外科であります。まだまだ若輩ではありますが、地域医療に貢献していこうと思っておりますのでよろしくお願い致します。